

このひとをきしっていますか？

第1回

幼少から才能を開花させた天才書道家【深谷市榊沢】

柳田可つ良 やなぎた かつら

(明治33年10月8日～大正7年5月3日)



柳田可つ良は、明治三十三(一九〇〇)年榊沢村(現在の深谷市榊沢)に生まれました。父西五郎は東洲と号する漢学者、母いちほは、積極的に和歌を発表した歌人でした。
可つ良は幼い時から書道で才能を発揮し、明治四十三(一九一〇)年十歳にして皇太子殿下(のちの大正天皇)の御前で書を揮毫(毛筆で文字や絵を描くこと)する栄誉を受けます。御前揮毫の様子は、新聞各社で報道されたため、可つ良のもとには全国から揮毫の依頼が殺到したのでした。



▲雲連海気琴書潤 風帯潮声枕簾涼
(雲は海気に連なり琴書潤い 風は潮声を帯び枕簾涼し)
▲巖辺樹色含風冷 石上泉声帯雨秋
(巖辺の樹色風を含み冷やかに 石上の泉声雨を帯びるの秋)
それそれ夏と秋を詠んだ七言対句で、可つ良13歳の作品

書道で名を知られるようになった可つ良でしたが、それ以上に志したのは画道で、両親は十一歳の可つ良を江森天壽に入門させました。天壽は、幡羅村東方(現在の深谷市東方)の人で、当時東京美術学校を首席で卒業した画家です。可つ良は大壽の熱心な指導を受け、その才能を開花させていきました。この頃から可つ良は作品に雅号「桂華」の落款、冠冒印に



▲花有清香月有影(花に清香あり月に影あり)
蘇軾(北宋の詩人)作「春夜」の一節。春の夜の趣を詠んだ詩。大意は「花には清らかな香りがただよい、月はおほるにかすんでいる」。描かれた桜の花と月はこの詩の情景を表したものと思われ、可つ良15歳の作品

『曾賜御前揮毫之栄』を押印するようになります。天壽は可つ良を画家としてさらに大成させるため、日本画家の荒木十畝にも入門させます。可つ良は、二人の師の教えを得て研鑽し、画家としての前途を大いに期待されました。しかし、熊谷高等女学校を卒業後の大正七(一九一八)年五月三日、病に倒れた可つ良は、わずか十八歳にして不帰の客となってしまうました。

用語の手引

『落款印と冠冒印』

作品の完成にあたり署名や押印をすることを落款といい、署名をしたその下か左下に押すのが落款印で、その内容は姓名や雅号となります。

冠冒印は作品の右上にアクセントとして押される印で、引首印とも言われ、必ず必要というものではありません。また、内容に決まりがないので作家の好みや個性が反映されやすいものです。

可つ良の冠冒印は、かつて御前揮毫の栄誉に浴したことを表したもので、その感激の大きかったことがうかがわれます。

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。また、年齢については、当時の通例に従い数え年の表記とします。

市長の深い話

深谷市長 小島 進



新年度を迎えて

今日から平成27年度が始まりました。新たに学校に入学されるお子さん、社会人になられるかたなど、さまざまなかたちで新しい生活を始める人が多い季節です。皆さんも気持ちを新たに、それぞれ目標を掲げて新年度をスタートしたことを思います。

さて、皆さんは新年度を迎えてどんな目標を掲げましたか。学校に入学されるお子さんであれば「友達をたくさんつくって、勉強を頑張る」だったり、社会人になられるかたであれば「一日でも早く仕事を覚えて、一人前の社会人になる」だったりするのでしょうか。

ここでは、掲げた目標を達成するにはどんな心構えが必要なのか。その際に参考となる言葉に、「功の崇きはこれ志、業の広きはこれ勤」というものがあります。これ、高い功績を立てるため、そして大きな業績を上げるためには、「志」と「勤」、この二つが必要だということを表しています。「志」とは、目標を掲げて、それを達成しようとする意欲のこと、「勤」とは、勤勉や精励のことです。またこの言葉には、「志」と「勤」は必ず二つ一纏でなければならず、どちらか一方でも欠けると、せっかく掲げた目標を達成できないという意味も含まれています。

私は、先日行われた市議会で、平成27年度の施政方針を表明しました。施政方針は、当該年度どのように市政を運営していくかを述べているとても重要なもので、言い換えれば、深谷市の「目標」です。この目標を達成するために、私も「功の崇きはこれ志、業の広きはこれ勤」を肝に銘じて頑張っていきたいと思えます。

なお、施政方針は、市ホームページにも掲載していますので、ぜひ一読していただければ幸いです。

ありがとうの手紙



最優秀賞

小学校低学年の部
いしいのおばちゃんへ

上柴東小学校1年(現2年) 松本悠空 さん

まいあさ、みどりのふくをきてつうがくろにたっている
いしいさん。
ほくがあさ「がっこうにいきたくない。」とないていた
りすると、ほくとてをつないでがっこうまでいっしょに
いってきます。
はれの日も、あめの日もまいにちえがおでいてくれます。
「いってらっしゃい。」
っていってくれるいしいさんに、おおきなこえであいさつ
するよ。
「いしいさん、いつもありがとう。いってきます。」

みんなの声BOX

Q 大規模な災害に備え、深谷市にはどれくらいの備蓄食料があるのですか？

A 市内18カ所の防災倉庫に、約7万食を備蓄しています。

市では、食料のほか飲料水(1本500ml)約16,000本、毛布などの生活物資、災害用の資機材などを備蓄しています。また、民間事業所などと協定を結び、災害時には、物資の提供をはじめとしたさまざまな協力体制を整えています。

問い合わせ

総務防災課 ☎
574-6635

